8　　飛びゆく蛍に託したこと　　　　　文法　動詞⑤　ラ変・ナ変

読解　人物の心情をつかむ

むかし、男ⓐありけり。人の娘の㋐かしづく、「①いかでこの男にもの言はむ」と思ひけり。うちでむことくやありけむ、ものみにⓑなりて死ぬべき時に、「かくこそ思ひしか」と言ひけるを、親聞きつけて、泣く泣く告げたりければ、まどひたりけれど、ⓒ死にければ、つれづれとこもりⓓりけり。

時はの㋑つごもり、いと暑き頃ほひに、は遊び居りて、夜ふけて、やや涼しき風吹きけり。たかく飛びあがる。この男、見ふせりて、

　ゆく蛍　雲のうへまでⓔいぬべくは　秋風吹くと　②に告げこせ

語注

雁＝鳥の名。雁は秋になるとやってくる。雁は肉体から遊離した霊魂を運ぶと言われている。

基本古語

難し（形ク）＝むずかしい。

水無月＝旧暦六月であり、四、五月とともに夏に属す。

遊ぶ（バ四）＝音楽を奏する。詩歌、舞などを楽しむ。

【原文】

むかし、男ありけり。人の娘のかしづく、「いかでこの男にもの言はむ」と思ひけり。うち出でむこと難くやありけむ、もの病みになりて死ぬべき時に、「かくこそ思ひしか」と言ひけるを、親聞きつけて、泣く泣く告げたりければ、まどひ来たりけれど、死にければ、つれづれとこもり居りけり。

時は水無月のつごもり、いと暑き頃ほひに、宵は遊び居りて、夜ふけて、やや涼しき風吹きけり。蛍たかく飛びあがる。この男、見ふせりて、

　ゆく蛍　雲のうへまでいぬべくは　秋風吹くと　雁に告げこせ

問一　次の「内容わしづかみ」の空欄に本文中の語句を書き入れよ。

ある人の大切に育てていた［　　　］が、［　　　　］間際に［　　　］への思いを口にする。それを［　　　］から聞いた男はあわててやって来たが間に合わず、娘は死んでしまった。六月（＝［　　　　　　］）の夜更けに空に上る［　　　］を見て、男は娘をしのぶ歌を詠んだ。

問二　波線部㋐・㋑の意味を答えよ（㋐は終止形でよい）。〈4点×2〉

㋐〔　　　　　　　　　　〕

㋑〔　　　　　　　　　　〕

問三　二重線部ⓐ〜ⓔの中から、ラ行変格活用とナ行変格活用ではないものを一つ選べ。〈6点〉

〔　　　〕

問四　［チェック問題］動詞⑤　ラ変・ナ変

(1)　次の活用表を完成させよ。〈1点×3〉

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 死ぬ | 侍り | あり | 基本形 |
|  |  |  | 語幹 |
|  |  |  | 未然形 |
|  |  |  | 連用形 |
|  |  |  | 終止形 |
|  |  |  | 連体形 |
|  |  |  | 已然形 |
|  |  |  | 命令形 |
| 行変格活用 | 行変格活用 | 行変格活用 | 活用の行・種類 |

(2)　次の傍線部の動詞の活用形を答えよ。〈2点×3〉

1　右大将藤原のといふ人、いまそがりけり。（伊勢物語）

〔　　　　　　　〕

2　おのれ酔ひたること侍らず。（徒然草）

〔　　　　　　　〕

3　男女死ぬる者数十人。（方丈記）

〔　　　　　　　〕

問五　傍線部①の解釈として最も適当なものを選べ。〈7点〉

ア　なんとかしてこの男に自分の思いを伝えたい。

イ　どうしてこの男と話をしなければならないのか。

ウ　なんとかしてこの男に語ってもらいたい。

エ　どうしてこの男は自分のことを何も言わないのだろうか。

〔　　　〕

問六　傍線部②について、

(1)　「男」は「雁に告げてほしい」と、何に頼んでいるのか。十五字以内で答えよ。〈10点〉

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

(2)　この部分に込められている「男」の思いとして最も適当なものを選べ。〈10点〉

ア　自分に思いを寄せていたという娘をしのび、彼女の魂を、秋風が吹くとやって来る雁に運んできてもらいたいという思い。

イ　自分も雁とともに秋風に乗って、愛しい娘の魂が待っている雲の上に会いに行くつもりだと伝えてもらいたいという思い。

ウ　雲の上に娘の魂が留まっているのなら、秋風が吹くころにはもう一度、悲しみに沈む自分の所に会いに来てほしいという思い。

エ　秋風が吹く季節になり、ますます恋しさを募らせている自分の切ない心情を、雲の上の娘の魂に知らせてほしいという思い。

〔　　　〕

【解答】

問一　娘／死ぬ／男／親／水無月／蛍

問二　㋐＝大切に育てる　㋑＝下旬〈4点×2〉

問三　ⓑ〈6点〉

問四　(1)〈1点×3〉

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 死ぬ | 侍り | あり | 基本形 |
| 死 | 侍 | あ | 語幹 |
| な | ら | ら | 未然形 |
| に | り | り | 連用形 |
| ぬ | り | り | 終止形 |
| ぬる | る | る | 連体形 |
| ぬれ | れ | れ | 已然形 |
| ね | れ | れ | 命令形 |
| ナ行変格活用 | ラ行変格活用 | ラ行変格活用 | 活用の行・種類 |

(2)　1＝連用形　2＝未然形　3＝連体形〈2点×3〉

問五　ア〈7点〉

問六　(1)　空高く飛び上がっていく蛍。（13字）〈10点〉

(2)　ア〈10点〉

【現代語訳】

昔、男がいた。ある人の娘で大切に育てていた娘が、「なんとかしてこの男と逢って語らおう」と思った。（しかし）言い出すようなことが難しかったからだろうか、（娘は）病気がちになって今にも死にそうな時に、「このように（深く）思っ（てい）た」と言ったのを、親が聞きつけて、泣きながら（男に）知らせたところ、（男は）あわててやって来たが、（娘は）死んだので、（男は）所在なく（女の家に）こもって（喪に服して）いた。

　時は旧暦六月の下旬、ひどく暑いころに、宵（のうち）は管弦の遊びをして過ごして、夜が更けて、少し涼しい風が吹いた。蛍が高く飛び上がる。この男が、（蛍を）横になったまま見て（詠んだ歌）、

空ゆく蛍よ。雲の上まで行くことができるのならば、天上の雁に下界では秋風が吹いているよと告げておくれ。

【補充問題】

問１　「かくこそ思ひしか」（２行目）の「かく」の指す内容を、本文中から十五字以内で抜き出して答えよ。

問２　「泣く泣く告げたりければ」（３行目）とあるが、誰が誰に何を告げたのか。次の空欄Ａ～Ｃに適当な語句を入れよ。

（　Ａ　）が（　Ｂ　）に（　Ｃ　）を告げた。

問３　「告げこせ」（７行目）とあるが、どのようなことを「告げておくれ」と言っているのか。簡潔に答えよ。

問４　本文の内容に合致するものを一つ選べ。

ア　内向的な娘は、自分の代わりに男に対する恋心を伝えてほしいと親に懇願した。

イ　娘の親は、娘の恋心を受け止めようとしなかった薄情な男に、泣いて抗議した。

ウ　男は、長年心を寄せていた娘が急死したことを伝え聞き、茫然自失の状態になった。

エ　男は、死んだ娘の魂を雁が運んできてくれるよう、その思いを飛ぶ蛍に託した。

【補充問題解答】

問１　いかでこの男にもの言はむ（12字）

問２　Ａ＝親　Ｂ＝男　Ｃ＝娘の思い

問３　秋風が吹いていること。

問４　エ